

Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for Itanium) 使用上の留意事項

まえがき

本書の目的

本書は PRIMERGY に Linux をインストール後、運用する際の留意事項について記載したものです。Linux をご使用の際には必ずご覧くださいようお願い申し上げます。

本書の読者

本書は PRIMERGY を運用される方を対象に書かれています。

本書の構成

本書の構成は以下の通りです。

第1章 運用時の留意事項

インストール後の留意事項について記載されておりますので、運用する場合は、必ず参照してください。

第2章 周辺装置・オプションカード増設について

インストール後、周辺装置、カードを増設する場合の手順、留意事項について記載しておりますので、必要に応じて参照してください。

第3章 その他

その他機能および制限値などの留意事項について記載しておりますので、参照してください。

添付資料 Global Array Manager-Client のインストール手順概要

Global Array Manager-Client のインストールを実施する場合の作業手順を記載しております。必要に応じて参照してください。

動作状況

本書に記載されている内容は、弊社にて整合性を確認したものです。予告なしに変更される場合もございますので、あらかじめご了承ください。

サポート&サービスについて

弊社では、お客さまに安心して Linux をご使用していただくために、**有償サポート・サービス (SupportDesk Product 基本サービス)**をご用意しております。ご契約いただきましたお客さまには、本書に関するご質問、インストールや運用の際に発生する疑問やトラブルなどについても解決支援させていただいておりますので、是非ご検討ください。

著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 富士通株式会社 2005

1. 運用時の留意事項

1.1 デバイス名の割り当てについて

Linux はハードディスクドライブ等の各種デバイスに対して、システム起動時に認識した順にデバイス名を割り当てます。このため、ハードディスクドライブやコントローラー等の故障発生後にシステムを再起動すると、当該ハードディスクドライブが認識できないために、デバイス名が変わることがあります。

例) SCSI ID=1, 2, 3 におのおのハードディスクドライブが接続されている場合、デバイス名はおのおの /dev/sda, /dev/sdb, /dev/sdc が割り当てられます。この状態で /dev/sdb が故障すると、再起動後には /dev/sdc が繰り上がり、/dev/sdb と認識されます。

デバイス名の思わぬ変更により、システムが起動できなくなることや、最悪の場合には、お客様のデータが破壊される恐れがあります。デバイスの故障検出時には、再起動を行う前に、レスキューモードで起動してハード故障の有無を確認することをお勧めします()。その後、ハード故障を修復し、バックアップテープ等からシステムを復元した上でシステムを再起動してください。

インストール CD1/4 を利用して、レスキューモードで起動します。
“1.4 レスキューモードを使用したシステムの起動方法”を参照

起動後、fdisk コマンドにて当該ハードディスクドライブが認識できるか否かを確認し、
/var/log/messages 内のハードエラーメッセージの確認等を行って実施してください。

1.2 Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for Itanium)のパッケージインストールについて

Red Hat Enterprise Linux は使用目的に応じて最適なシステムを構築するため、インストールタイプが用意されています。このため、お客様の必要とするパッケージがインストールされていない場合があります。必要とするパッケージがインストールされていない場合、root にてログインし、以下の手順でインストールしてください。

インストールキットに含まれているインストール手順書で作成したインストール CD(1/4 ~ 4/4)を使用して、必要なパッケージをインストールします。

```
# mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS
# rpm -ivh <package_file>
```

例) make のパッケージをインストールする場合

```
# rpm -ivh make-3.79.1-17.i386.rpm
# cd /
# umount /mnt/cdrom
# eject
```

CD を取り出してください。

1.3 Global Array Manager (以降 GAM) のインストールおよび設定方法

SCSI-RAID カード(PG-142E3)が搭載されている構成でシステムを使用する場合、RAID 管理ツールとして Global Array Manager を使用してください。

GAM-Client(Windows)のインストール方法については、“添付資料 Global Array Manager-Client のインストール手順概要”を参照してください。

GAM-Server(Linux)のインストール手順は、以下を実施してください。

[注意事項]

- 1) インストール時および、GAM のサービス起動時に画面表示が乱れる場合がありますが、動作上問題はありません。
- 2) GAM のサービスでは、以下のポート番号を使用しています。
ファイアウォールを設定される場合はご注意ください。

ポート番号：157,158

- (1) GAM-Server(Linux)をインストールする場合は、ドライバ CD を CD-ROM ドライブに挿入した後、以下の操作を実施します。

```
# mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/UTY/GAM/Linux
# rpm -ivh gam-server-6.02-20.i386.rpm
# rpm -ivh gam-agent-6.02-20.i386.rpm
# cd /
# umount /mnt/cdrom
# eject
```

CD を取り出してください。

- (2) Linux のユーザーアカウントとして、GAM の管理者権限用の「gamroot」というユーザーアカウントとユーザー権限用の任意のユーザーアカウント(例: gamuser)を作成します。
(既にユーザー用の任意のアカウントが作成されている場合は、作成する必要はありません。)

```
# adduser gamroot
# passwd gamroot
```

Changing password for user gamroot

New-password パスワードを入力します。

Retype new password 確認のため上記で指定したパスワードを再度入力します。

passwd: all authentication tokens updated successfully

ユーザー権限用の任意のユーザーアカウントも上記と同じように実施します。

- (3) /etc/sysconfig/gam ファイルの以下に示す 3 行の編集を行います。
本編集により、各イベントが GAM-Client に通知されるようになります。

```
# vi /etc/sysconfig/gam
```

[編集前]

```
START_GAMEVENT=n  
GAMEVENT_OPTIONS=""
```

[編集後]

```
START_GAMEVENT=y      “n”を“y”に変更します。  
GAMEVENT_OPTIONS="-h IP アドレス"  GAM-Client がインストールされている管理  
                                     用 Windows システムの IP アドレスを設定  
                                     します。
```

[編集前]

```
START_GAMEVLOG=n
```

[編集後]

```
START_GAMEVLOG=y      “n”を“y”に変更します。
```

- (4) GAM 監視シェルをインストールします。
ドライブ CD を CD-ROM ドライブに挿入した後、以下の操作を実施します。

```
# mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom  
# cd /mnt/cdrom/UTY/GAM/Linux  
# ./INSTALL.sh  
# cd /  
# umount /mnt/cdrom  
# eject  
CD を取り出してください。
```

- (5) システムを再起動します。
shutdown -r now

システム起動後に以下のメッセージが表示されることがありますが、
動作上問題はありません。

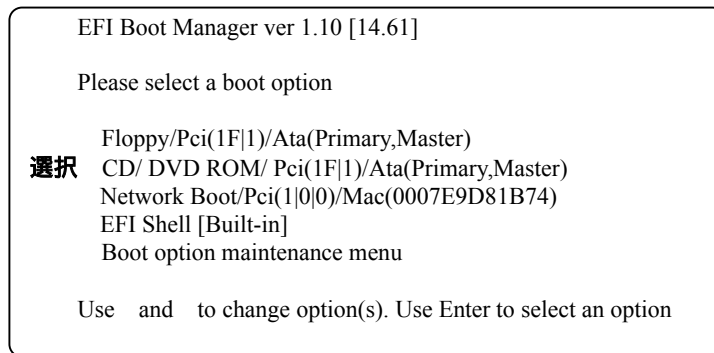
[メッセージ]

```
gamagent: gamagent: Connection refused  
gamagent connect failure
```

1.4 レスキューモードを使用したシステムの起動方法

ドライバキットに含まれているインストール手順書で作成したインストール CD をレスキューモードで起動することにより、CD だけでシステムを起動することができます。これを利用することにより、トラブルが発生して起動しなくなったシステムを復旧できる可能性があります。以降では、最低限の使用方法であるシステム起動についてのみを説明します。以下に、レスキューモードを使用したシステムの起動方法を示します。

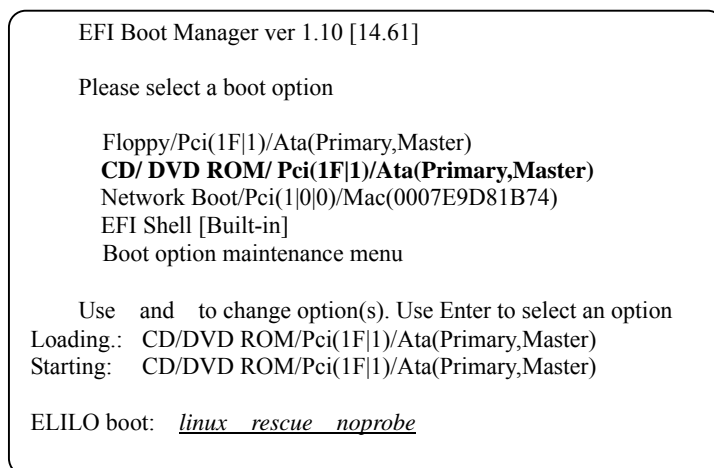
- (1) インストール CD1/4 を挿入し、システムを起動してください。ブートオプション一覧画面が表示されますので、以下のブートオプションを選択してください。
「CD/DVD ROM/ Pci(1F|1)/Ata(Primary,Master)」



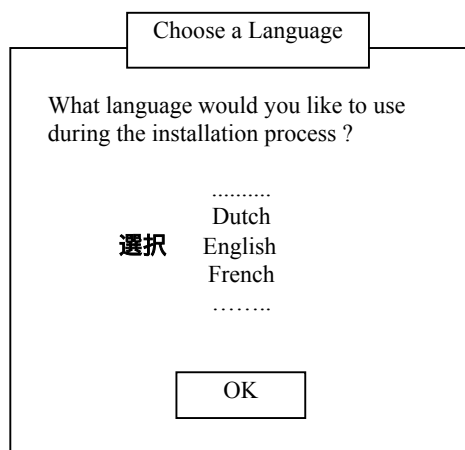
なお、インストール CD1/4 の挿入が遅れた場合、以下のメッセージが出力されることがあります。その場合は、インストール CD1/4 を挿入した状態で、[Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを同時に押下しシステムを再起動後、上記手順を再度実施してください。

```
Loading. : CD/ DVD ROM/ Pci(1F|1)/Ata(Primary,Master)
Load of CD/ DVD ROM/ Pci(1F|1)/Ata(Primary,Master) failed: Not Found
Paused – press any key to continue
```

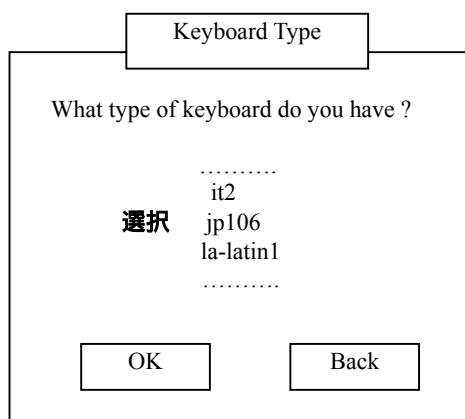
(2) 以下の画面にて linux rescue noprobe を入力し[Enter]キーを押下します。



(3) Choose a Language 画面にて、「English」を選択し、「OK」を選択します。

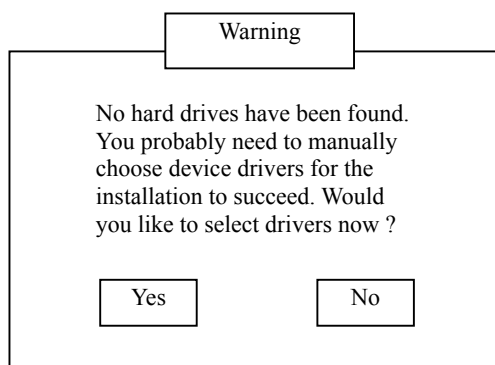


(4) Keyboard Type 画面にて、「jp106」を選択し、「OK」を選択します。
フラットディスプレイ(PG-R1DP3)などの付属キーボードを使用する場合には、
ここで「us」を選択してください。



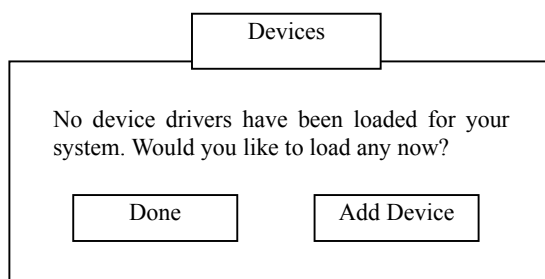
(5) 以下の画面にて、「Yes」を選択します。

USB フロッピーディスクドライブを接続した場合は表示されません。

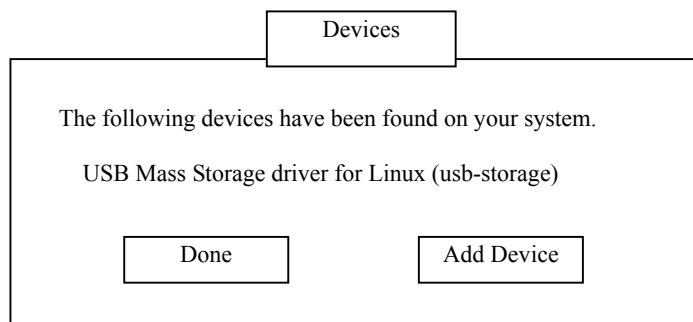


(6) 以下の画面にて、「Add Device」を選択します。

[USB フロッピーディスクドライブを接続していない場合]



[USB フロッピーディスクドライブを接続している場合]



(7) 以下のドライバを選択し「OK」を選択します。

[オンボード SCSI の場合]

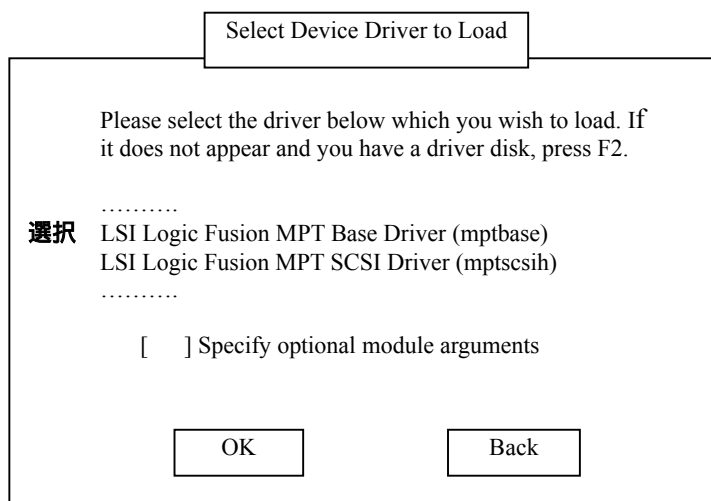
「LSI Logic Fusion MPT Base Driver (mptbase)」

「LSI Logic Fusion MPT SCSI Driver (mptscsih)」

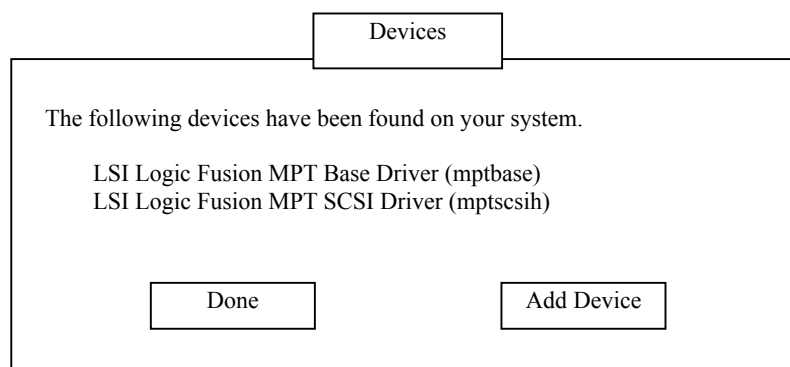
[SCSI-RAID(PG-142E3) の場合]

「MegaRAID 418,428,438,466,762 (megaraid)」

以下に、オンボード SCSI の場合の例を示します。



(8) 以下の画面にて、選択したドライバが表示されていることを確認し、「Done」を選択します。



- (9) Setup Networking 画面が表示されますが、ネットワークの設定は行わないため、「No」を選択してください。

Setup Networking

Do you want to start the network
interfaces on this system ?

- (10) Rescue 画面にて、「Continue」を選択します。

Rescue

The rescue environment will now attempt to
find your Red Hat Linux

.....
.....
and you will go directly to a command shell.

- (11) 既存の Linux システムのルートパーティション(/)が、/mnt/sysimage にマウントできた場合、その結果が Rescue 画面にて表示されるので、「OK」を選択します。

Rescue

Your system has been mounted under
/mnt/sysimage.

Press <return> to get a shell. If you
would like to make your system the
root environment, run the command:

`chroot /mnt/sysimage`

The system will reboot automatically
when you exit from the shell.

(12) プロンプトが表示されたら、chroot コマンドにて、ルートパスをハードディスクドライブに変更します。

```
sh-2.05b# chroot /mnt/sysimage
```

(13) 以上で、レスキューモードでの起動が完了します。なお、レスキューモードを終了するには、exit コマンドを 2 回実行してください。

```
sh-2.05b# exit          chroot 環境から抜ける
sh-2.05b# exit          レスキューモードから抜ける
```

1.5 シャットダウン時の電源切断について

シャットダウン時自動的に電源が切断されません。

コンソール画面に[Power down.]と表示されてから、電源スイッチを押して電源を切断してください。

なお、ServerView をインストールした環境でのシャットダウン時は、自動的に電源が切断されます。

2. 周辺装置・オプションカード増設時について

2.1 SCSI ディスクの増設について

LUN 数のデフォルト値は 1 に設定されています。SCSI ディスクや共有ディスク、テープライブラリ装置等を増設する場合、root にてログインした後、以下の手順で LUN 数を定義する必要があります。次のシステム起動から複数 LUN 参照が有効になります。

(1) /etc/modules.conf に以下の行を追加します。

```
alias scsi_hostadapter mptbase
alias scsi_hostadapter1 mptscsih
options scsi_mod max_scsi_luns=N ←追加
N は LUN 数です。適切な数字を定義してください。
```

(2) mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。

ご使用のカーネルに合わせて、mkinitrd コマンドにより initrd を作成してください。

(`”¥”`は継続行を意味します。入力不要です。)

ご使用のカーネルを確認する場合は、以下のコマンドを実施してください。

```
# uname -r

# cp /boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-20.EL.img ¥
  /boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-20.EL.img.bak
# mkinitrd -f /boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-20.EL.img 2.4.21-20.EL
```

(3) システムを再起動します。

以下の手順にて、システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

2.2 オプションカードの増設について

システムをインストールした後に下表のオプションカードを増設した場合、システム起動時に kudzu が自動起動されますので、ファイバチャネルカードを増設している場合は以下の操作を実施してください。ファイバチャネルカード以外の場合は「configure」を選択してください。また、LAN カードを増設した場合には、画面の表示に従ってネットワークの設定を実施してください。

システム起動後に root にてログインし、“2.3 mkinitrd の実施”を実施してください。次回のシステム起動時から、増設したカードが自動的に認識されるようになります。

		RXI600	RXI300
SCSI-RAID カード	PG-142E3		
LAN カード	PG-1862		
	PG-1881		×
	PG-1892	×	
	PG-1882	×	
ファイバチャネルカード	PG-FC106		

[ファイバチャネルカード(PG-FC106)を増設した場合]

- (1) システムをインストールした後にファイバチャネルカードを増設した場合、システム起動時に kudzu が自動起動されますので、すべて「Ignore」を選択してください。
- (2) /etc/modules.conf を以下のように追加します。

[追加内容]

```
alias scsi_hostadapter2 lpfedd          追加
options scsi_mod max_scsi_luns=128     追加
```

2.3 mkinitrd の実施

- (1) mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。

使用しているカーネルに合わせて、mkinitrd コマンドにより initrd を作成してください。

(“*”は継続行を意味します。入力は不要です。)

ご使用のカーネルを確認する場合は、以下のコマンドを実施してください。

```
# uname -r
```

以下に、コマンドの実行例を示します。

```
# cp /boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-20.EL.img ¥
/boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-20.EL.img.bak
# mkinitrd -f /boot/efi/efi/redhat/initrd-2.4.21-20.EL.img 2.4.21-20.EL
```

2.4 システムを再起動します。

以下の手順にて、システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

3.その他

3.1 サウンド機能について

サウンド機能はサポートしていません。

3.2 PCI ホットプラグ機能について

PCI ホットプラグ機能はサポートしていません。

3.3 USB ホットプラグ機能について

USB ホットプラグ機能はサポートしていません。

3.4 ディストリビューションの制限値について

以下に示す CPU/メモリ/ファイルシステムの制限値を超えた場合、動作は保証できません。

最大論理 CPU 数	16 個
最大メモリ容量	128 GB ()
ファイルシステム	1 TB 未満

機種毎の最大メモリ容量を示します。

	RXI600	RXI300
最大メモリ容量	32 GB	16 GB

3.5 32bit アプリケーションの互換性について

Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3 for Itanium) において、32bit アプリケーションの実行は、動作を保証しておりません。

3.6 インストール手順について

Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for Itanium)インストール手順については、ダウンロード検索よりダウンロードした「[インストールキット](#)」に含まれているインストール手順書をご参照ください。

- 以上 -

添付資料 Global Array Manager-Client のインストール手順概要

この作業は、SCSI-RAID カード(PG-142E3)を搭載している場合のみ実施してください。GAM-Client は Microsoft Windows2000/2003 上で動作します。管理用 Windows システムを用意してください。

1. ドライバ CD を管理用 Windows システムの CD-ROM ドライブにセットしてください。
2. ドライバ CD 内の“UTY¥GAM¥Windows”内にある setup.exe を実行してください。
3. 「Welcome」ウィンドウが表示されたら、「Next」をクリックしてください。
4. 「Software License Agreement」画面が表示されるので、内容をお読みいただき同意される場合は、「Yes」をクリックしてください。
5. 「Select Components」ウィンドウ (図 1) が表示されます。「Global Array Manager Client」の横にあるボックスがチェックされていることを確認してください。また、「Global Array Manager Server」および「SANArray Manager Client」のチェックは外してください。

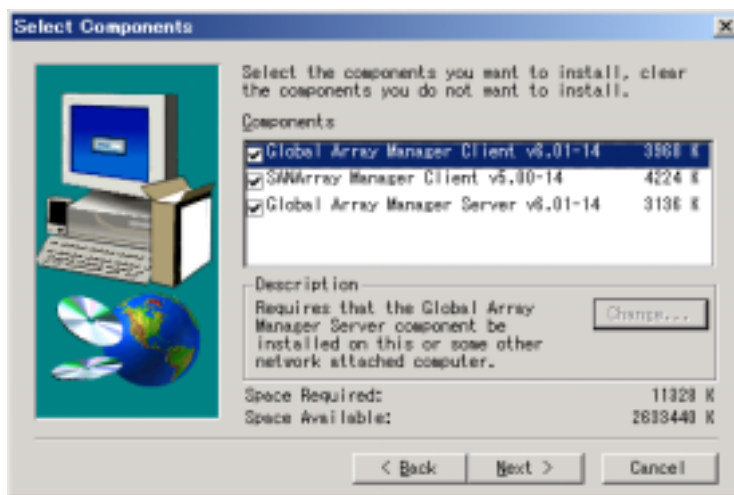


図 1

「SANArray Manager Client」は未サポートです。インストールは行わないでください。

6. 「Choose Destination Location」ウィンドウが表示されます。「Browse」をクリックし任意のインストール先を指定して、「Next」をクリックしてください。

GAM-Client が既にインストールされている場合には、上書きを確認するメッセージが表示されます。「OK」をクリックして続行してください。

7. GAM-Client のインストール先が表示されます。「Next」をクリックしファイルのコピーを開始します。
8. 「Setup Complete」画面が表示されます。「Finish」をクリックして GAM のインストールウィザードを終了します。

- 以上 -